

【草花の部屋】

ローゼル (アオイ科ヒビスクス属 *Hibiscus sabdariffa*)

和名：紅葵(べにあおい) **別名**：ロゼリソウ **英名**：roselle

アオイ目 一年草または多年草 **原産地**：アフリカ

花言葉：新しい恋、華やか、常に新しい美 **花色**：赤、黄



← 写真-1 ローゼルの花

撮影日：2021年10月3日
撮影場所：大和郡山市郊外
撮影者：M さん

↓ 写真-2 ローゼルの葉

撮影日：2021年10月3日
撮影場所：奈良市郊外にて
撮影者：M さん



← 写真-3 ローゼルの総苞

撮影日：2021年10月3日
撮影場所：大和郡山市郊外にて
撮影者：M さん

ローゼルは、ハイビスカス (*Hibiscus rosa-sinensis*) の仲間で、ローゼルという名前は、花の形がバラに似ているところから来ているそうです。食用を中心とした様々な目的で、原産地をはじめ東南アジアやその他の熱帯、亜熱帯で幅広く栽培されています。

ハイビスカスは花を鑑賞して楽しめますが、ローゼルは、実の鑑賞や、苞(ほう)と萼(がく)を使ってハイビスカスティーやジュースなどにして楽しむことができます。ローゼルで作る赤いお茶を一般的にハイビスカスティーと呼ばれます。

草丈は1~2m、茎が紅紫色になる種と淡い緑色になる種があり、9月~12月にかけて葉の付け根に直径10cmほどの薄黄色で基部が暗紅色をした五弁花を咲かせます。花色は赤みがかかった種とクリーム色の種があり、いずれも中心が暗褐色になります。花後は果実を包む鮮やかな紅紫色の萼(がく)や総苞(そうほう)がイチゴのような形に膨らみます。葉は互生し、長い葉柄に3または5深裂する楕円形の葉が手のひらを広げたようにつきます。茎の赤紫色と、葉の緑色のコントラストが印象的な植物です。日本では冬越しできないため一年草として、冬越しできれば多年草として扱われます。

増殖は、冬越しできなければ種まきで増やします。採種時期が早すぎると発芽しないことがあるため、枯れる直前が適期だそうです。冬越しできれば、挿し木で増やすことができるそうです。

4~5月がタネまきの適期です。発芽の適温は20℃程度で、あまり気温が低いと発芽しないそうです。このため、タネまきの時期が遅くなると開花前に寒さで枯れてしまうので要注意です。6月に入ってからタネまきは遅いそうです。屋内で早めにまいて苗を作っておき、暖かくなってから植え付けるのも一方法だそうです。

熟した萼は多汁質でクエン酸や酒石酸を多く含み、乾燥させたものがハイビスカスティーの原料となります。血圧降下や、風邪、疲労回復に効果がある健康食品とされているそうです。

ハーブティーに利用する以外には爽やかな酸味と美しい紅色を活かしてお酒に浸けてローゼル酒にしたり、砂糖で煮てジャムにしたり、料理のソースにするそうです。花以外の部位としては、若葉をカレーの風味付けや種子は煎って食用にでき、茎は繊維の原料にもなるそうです。草丈が高くなるものが多く、花壇や鉢植えの他、切り花にも利用されるそうです。

<ちょっと一言>

*苞(ほう)：

- ・蕾(つぼみ)を包むように葉が変形した部分。蕾が開いた後は花の基部に残ります。苞葉とも言い、個々の苞を苞片と言います。

*総苞(そうほう)：

- ・花序全体の基部を包む苞を総苞といい、個々の総苞を総苞片と言います。